

I 理念・目的・教育目標

21世紀高齢社会に対して、より健康で活動的な生活を望むべく日常の生活の中での運動・スポーツの重要性を社会に啓蒙すべく研究・教育活動を行うことを目標とし、またスポーツ競技者の事故（整形外科的、内科的）の防止および競技力向上に関する基礎および臨床研究を行う。

II 教育研究組織

塾内の医学部、病院（スポーツクリニック）、理工学部との連携による多彩な研究活動を行うことが現在の活動内容となり、その活動拠点・統括の役割としての組織形態を重視している。また外部からの委託研究事業の増加に対しては発足当初からの基盤に変化が無いことからの限界が課題となる。

IV 研究活動と研究体制の整備

IV-1 研究活動

(1) 論文等研究成果の発表状況

研究センター紀要および業績集定期刊行にて発表。

IV-2 研究体制の整備（経常的な研究条件の整備）

(1) （個人・共同）研究費・研究旅費の充実度・問題点

慶應義塾、文部科学省および外部機関からの委託、共同研究費が主たる原資であり、その額については、現在のところ不足という状況ではない。また旅費規程に準じた額での支給にも問題なし。

(2) 教員研究個室等の整備状況と将来計画

現教員数に対する個人的活動スペースは、個室ではないが十分保たれている。今後の研究員の増員すなわちより拡大を考慮すると、現時点ではその可能性が無いことが指摘される。

(3) 教員の研究時間を確保させるための方途

教員は医師としての活動も要求されていることから、また研究活動の範囲を広げる基盤として、大学病院および関連病院があることから、研究活動以外の臨床活動も多く望まれている。そ

のための研究時間確保には困難を有している。これには人員の数にも起因している。すなわち個人研究は本研究所の活動内容から少なく、共同研究が多いため、自ずと人員一定以上の数が必要となるためである。

(4) 特筆すべき競争的な研究環境の創出

助成団体から1件の採択。

(5) 研究論文・研究成果の公表を支援するための措置や大学・研究機関間の研究成果を発信・受信するシステムの整備

研究成果発表のシステムの一つとして、紀要の発行、および国内外の学会参加への資金援助。

(6) 研究等における倫理性の確保

医学部の倫理規定に沿うことを基本とする。

VI 教育研究のための人的体制

(1) 教員組織

研究所として、専任教員、非常勤教員の総数は不足しているが、その不足を外部からの支援により補うことで対処し現状での活動内容を上げることを模索している。

(2) 研究支援職員・組織の充実度

これも不足しているが、自助努力によるところが大きい。

(8) 学内外の教育研究組織・機関との人的交流の状況

医学部および理工学部との共同研究は多くなされており、その中での交流は有するが人的交流がない。また外部との共同研究もあるがこれも人的交流はない。しかし、人的交流は望ましいと考えている。

VII 施設・設備等

VII-1 施設・設備等の整備

(2) 学生・教員に対する情報機器の利用環境・機器配備状況

過不足ない状態である。

(3) 施設・設備の社会への開放に対する配慮

原則として開放はしていない。職員との共同事業および疾病管理の下においての使用ということで管理された状態であるため、開放はない。

Ⅶ-3 利用上の配慮、責任体制

(2) 各施設等の利用時間帯の配慮

管理下における利用を学生および教職員に進めるべく勤務時間外および授業終了後の対応を行っている。

XII 財政

XII-2 外部資金等

(1) 文部科学省科研費、外部資金（寄付金、受託研究費、共同研究費等）の受入れ状況

教員個人の判断に委ねられており、組織としての戦略に欠けるため、今後この点を改善するための組織作りが必要となる。

XIII 事務組織

XIII-1 事務組織と教学組織との関係

(1) 事務組織と教学組織との連携協力関係の確立状況

主に保健師など専門職の集団であるため、スポーツ医学に関する教育、研究、臨床について教員との相互協力体制の維持。

XIII-2 事務組織の役割

(2) 予算編成過程における事務組織の役割

予算編成の基本方針に基づき、事業内容の適正および合理性などを十分に配慮し、委託研究費等の事業収入へも目を向け、教育、研究、臨床活動を推進することである。

XIII-3 事務組織の機能強化のための取組み

スポーツ医学研究センターの活動の発展に際し、教員との係わり合いを密にし、アスリートのサポートを含め協力し、事務を通し育成のための、その成果として、学会発表等の機会を与えるようにする。

以上

